

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア	学習指導
<p>◎個別指導計画において新学習指導要領の3観点を踏まえた学習評価を行う等、指導の一層の充実に努めた。学校評価の保護者アンケートでは、97%の肯定率をいただいた。</p> <p>◎一人1台端末が、配備され、御家庭の御理解と御協力を得ながら、個別最適化の利活用を図った。また、ICT機器を活用した指導・教材開発に取り組んだ。</p> <p>◎都立特別支援学校知的障害教育外部専門員事業を活用し、理学療法、作業療法、言語聴覚、視機能訓練、臨床発達心理、学習指導、情報教育といった様々な方面からの助言を得て、教員の指導力向上を図った。</p>	
イ	生活指導
<p>◎感染症予防対策を組織的に取り組み、感染症拡大に留意し安全・安心な環境構築のもと、集団における緊急時対応訓練等、様々な安全教育を実施した。</p> <p>◎学校、保護者、スクールバス会社相互間で連携を図り、安全なスクールバスの運行に取り組んだ。</p> <p>◎将来の自立と社会参加を視野に、一人一人の実態に応じた移動スキルの向上を図り、段階を踏んできめ細やかな指導を行った。</p>	
ウ	進路指導
<p>◎小学部段階からキャリア教育を意識した指導を積み上げるため、今年度は、小学部は、校内での就業体験、中学部は、外部において見学や就業体験を実施した。また、継続して動画等も活用した。</p> <p>◎進路保護者研修会は、子供の将来を考え、卒業後の生活や障害福祉サービスのこと等について動画配信での研修を実施し、グループホーム関係者に講演いただき、卒業後の生活に理解を深めることができた。</p> <p>◎今年度は、感染症対策をしながら、進路先の学校と連携を図って、学校見学を実施した。体験等も設定し、一層充実した進路指導を進めることができた。</p>	
エ	特別活動
<p>◎オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを構築し、「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」において、フェンシングの金メダリストやサッカー元日本代表との体験活動や講演を実施した。また、体育健康教育推進校として東京パラリンピックのボッチャの監督・メダリストの指導による体験活動等を実施し、パラリンピック競技について興味をもち、理解を深めた。音楽鑑賞会や「日本の伝統・文化」での和太鼓の演奏・鑑賞、踊り等の活動により、芸術・文化面における興味・関心の幅を広げた。</p> <p>◎学習発表会は、舞台発表を学年ごとに実施した。また、展示発表は、授業参観週間を活用して校内展示発表をした。</p> <p>◎PTAや地域の学校、企業と連携して、昨年度に引き続き、SDGsの取組「“届けよう、服のチカラ”」プロジェクトを全校で推進した。また、地域企業の社内環境改善に資する社会貢献活動を行った。</p>	

オ	<p>健康づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎医療的ケアや緊急時アレルギー対応訓練等の研修を実施したり、指導医・学校医の方々に指導・助言をいただいたりしながら、安心・安全を確保できるよう組織的に対応した。 ◎療育相談を実施し保護者との共通理解を図った。病院への紹介相談も多く、医療連携の役割も担った。 ◎学校医の方々から、感染症対策も含めた健康に係る御指導・情報提供等をいただいたり、体育健康教育推進事業の講師より健康増進や体力向上のための取組の御指導をいただいたりして進めた。
カ	<p>校内研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎OJTチームによる授業研究の充実を図り、教員同士で切磋琢磨したり、外部専門員を活用したりして指導力向上を図った。 ◎全教員が、発達段階に応じた教材を作製して発表したり、外部講師を招聘して、校内研究に取り組み、発表会を実施したりして、情報を共有し、組織的に学びを深めながら専門性を高めた。 ◎若手・中堅教員の育成・資質向上研修や校内研究授業等の活用により、教員の授業力の向上を目指して、組織的に取り組んだ。また、デジタルを活用した実技研修もシリーズで設定し理解を深めた。
キ	<p>特別支援教育のセンター的機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎学区域を中心に関係機関と連携して特別支援教育への理解啓発の推進を図った。 ◎専任コーディネーターを中心に、学区域の幼稚園、保育園、小・中学校等を訪問し、センター的機能を発揮した。 ◎近隣の小・中・高等学校や特別支援学校との交流は、今年度は、感染症対策をし、工夫をしながら、対面での交流を実施する等して、一層関係を深めることができた。
ク	<p>学校経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎保護者の学校評価アンケートの回収率は、99.6%であった。感染症対策をし、工夫を図りながら、宿泊行事や校外活動、プール指導、交流、就業体験等を実施した。御家庭と連携を図りながら進め、学校評価では、全般的に肯定的な評価をいただくことができた。 ◎ICT等を活用し、会議運営等の効率化、適正な進行管理、業務精選を行った。 ◎体罰・いじめ防止研修等を実施し、人権を尊重した指導への意識を醸成した。 ◎SNSによる情報発信、オンライン学習等について、積極的に推進した。 ◎学校における働き方改革プランに基づき、定時退庁日等による計画的業務遂行やライフ・ワーク・バランスの推進に努めた。 ◎産業医と連携を図り、職場環境の改善に努め、教職員の健康管理に努めた。 ◎経営企画ガイドラインを活用し、経営企画室の学校経営参画が推進できた。 ◎学校施設・設備の改修工事（トイレ改修工事）を円滑に計画的に安全実施することができた。 ◎令和5年度創立40周年記念行事活動として、PTAと連携して、記念キャラクターを募集したり、プロジェクションマッピング・イベントを開催したりする等、組織的に心に残る記念活動を実施することができた。

(2) 重点目標に関する具体的方策の自己評価

重点目標	具体的方策及び評価	
学習指導		
個別指導計画等における適切な目標設定、効果的な指導方法・内容の充実を図る。	個別指導計画等に基づいた学習成果の的確な把握、評価・改善に努めた。	◎
ICT機器を活用した学習指導、教材作成	全教員、ICT機器を活用した授業実施 → 100%	◎
外部専門員を活用した指導の充実	全校で外部専門員を活用。年間945時間	◎
生活指導		
感染症対策等に努め、自ら身を守る教育の実施 緊急対応訓練の実施	感染症対策の実施。的確な情報収集、安全な環境の構築に努めた。 避難訓練、宿泊防災訓練等、緊急時の的確な対応訓練を実施	◎
安全で安心なスクールバスの運行	乗務員研修を年間3回以上 → 12回実施	◎
一人通学練習計画の充実と活用	実施者の一人通学指導計画の作成100%	◎
進路指導		
中学部の就業体験学習の充実	中学部3年間で3回の就業体験・職場見学実施 → 校外において、就業体験、作業所見学等実施 校内において動画等も活用	○
小学部の就労体験学習の充実	小学部5・6年生年各1回の就業体験実施 → 校内において各学年就業体験実施	○
保護者の進路指導についての理解促進	年1回の保護者進路研修会の実施 → オンラインにて実施	○
特別活動		
オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを構築し、体育的、文化・芸術的活動・行事の充実	体育健康教育の推進、笑顔と学びの体験活動プロジェクト、文化・芸術プログラムの実施	◎
学習発表会での日常の教育活動の成果発表や宿泊・校外学習等、体験活動の充実	参観者200名以上 → 舞台発表：学年ごと実施、展示発表：授業参観週間に実施	◎
SDGs、社会貢献活動に関する取組の実施	保護者、地域、関係機関等と連携した活動の実施 → 近隣校、企業、PTAと連携し、SDGs、社会貢献活動に関する取組を実施	◎
健康作り		
医療的ケア、食物アレルギー対応等、安全実施	医療的ケア安全委員会または担当者会を各学期実施。年度当初にアレルギー対応訓練・研修会実施 → 研修会等、実施。事故0	◎

精神科校医を活用した心身の健康づくりの推進	精神科療育相談10ケース以上 → 11ケース	◎
食育の推進、健康増進・体力向上のための取組	食育に係る情報配信、給食時、毎回実施 健康増進・体力向上のための取組実施	◎
研究研修活動		
OJTチームによる研究授業、研究会の充実	チームによる研究授業及び研究会協議会3回以上実施	◎
個に応じた教材・教具に関する研修会の実施	研修会2回以上実施	◎
デジタル技術を活用した教育推進のための教員研修	適時実施	◎
特別支援教育センター的機能		
幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校等への特別支援教育に係る指導・助言	適時実施 コーディネーターの相談件数 → 970件	◎
放課後活動事業所との連携	要望のあった事業所へ訪問	○
近隣校との交流教育・副籍交流の充実	通年	○
学校経営		
機能的・効率質なライン化による組織運営、会議運営の効率化と適正な進行管理	通年	○
定時退庁日、学校閉庁日の設定・促進による計画的業務遂行の推進	毎週水曜日、長期休業中の定時退庁率80%以上 学校閉庁日：年5日	◎
ライフ・ワーク・バランスの推進	両立支援アドバイザーの設置	◎
産業医と連携した職場環境改善、教職員の健康管理・メンタルヘルス対策の推進	毎月、産業医による教職員の健康相談の実施、安全衛生委員会の開催	◎
体罰・いじめ・自殺防止研修、情報セキュリティー研修、学校徴収金等の取扱研修、服務事故防止研修等の実施	年間5回以上実施	◎
SNSによる学校広報	Twitter等による情報発信、年間100件以上 → 150件	◎
職員検診、人間ドック受診率の向上	95%以上 → 98.8%	◎
適正な予算編成と予算執行の管理	センター執行：60%、1月：執行率75%	◎
学校施設・設備の計画的な改修工事の実施（トイレ）	トイレの改修工事の安全実施	◎
令和5年度創立40周年記念行事・教育活動に係るプロジェクトの運営とPTAと連携した計画的な実施	PTAと連携し、プロジェクトチームを核に組織的・計画的に運営	◎

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 教員の専門性と授業力向上による学習指導の充実

- ・外部専門員を活用した授業改善、指導力の向上
- ・個々の児童・生徒に応じた教材の工夫と共有化
- ・ICTを利活用した指導の充実
- ・オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの構築、体育健康教育の推進

(2) 危機管理体制の構築と対応力の強化

- ・安全安心な学校づくり
- ・感染症対策
- ・防災教育の推進、危機管理機能の充実
- ・医療的ケアの安全実施の構築
- ・アレルギー対応安全実施

(3) 地域との連携と特別支援教育の推進

- ・センター的機能の発揮
- ・地域・関係機関との連携
- ・企業との連携
- ・特別支援教育の理解啓発、教育活動の発信・共有

(4) 学校生活と卒業後の生活を見通した総合的な支援

- ・自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実
- ・児童・生徒、保護者のニーズに応える進路指導と情報共有・提供

(5) 学校経営及び組織体制の充実

- ・OJTを活用した組織的な若手教員の育成・中堅教員の資質向上
- ・経営企画室の経営参画と連携によるさらに円滑な学校運営
- ・ライフ・ワーク・バランスの推進
- ・学校施設・設備の改修工事の計画的な安全実施